

中山晋平の新民謡(三)―飯山小唄

大月 和彦

新民謡・須坂小唄が有名になると各地に晋平作曲の小唄が作られた。三朝小唄、松本民謡、上州小唄など。晋平の出身地でも中野小唄が作られた。この動きに北信州の飯山町もご当地ソングを作ろうと、スキー協会が下水内郡永江村(現中野市)出身の国文学者で文部省の音楽教科書の編集委員高野辰之に作詞を依頼し、快諾を得た。辰之は、「(一)ここは飯山スキーの(ササ)名所/月や花より雪を待つウィンタースポーツ スキーマン (二)行こよ城山神明ヶ丘へ/

雪が晴れたよ陽が出たよ(三)以下略」の詞を作り、作曲を東京音学校時代の教え子晋平にとした。辰之は飯山の高等小学校を卒業、同校に勤務するなど飯山との縁が深い。辰之作詞の唱歌おぼろ月夜や故郷などの情景は飯山での体験にもとづくといわれる。高名な二人のコンビによって出来た飯山小唄はしかしながら、世に受け入れられなかった。歌詞に土俗性がないからか、囃子ことばや問の手の表現に問題があったからなのか。二人の呼吸があわなかったのだ。当時も音楽作品はレコード会社主導で企画・制作・販売され、ヒットするかどうか問われた。飯山小唄は売れないと判断され、レコード化されなかった。

飯山小唄

♩=86

ここは - い - い - やま - スキ -
イ - の - さ - さ - め - い - しょ -
つ - や - は - な - よ - り - ゆ - き -
を - ま - つ ウィンタースポーツ スキーマン

現に問題があったからなのか。二人の呼吸があわなかったのだ。当時も音楽作品はレコード会社主導で企画・制作・販売され、ヒットするかどうか問われた。飯山小唄は売れないと判断され、レコード化されなかった。

この春、中野市の晋平記念館を訪ねて飯山小唄の楽譜をいただいた。知人の音楽家が音曲に再生し、歌唱をつけてくれた。初めて聴いた飯山小唄は、ピンとこなかった。

知人の感想。「…前奏をつけ足したほか間奏を含め、大体楽譜の通り。歌詞は一番が三行構成で、途中にササの間の手がつく。二番以降は二行の構成。一番三行目ウィンタースポーツは晋平の補筆かもしれない。レコード化の話が進んでいれば終わりで補筆しただろう。一聴してとても歌にくいメロディだが、世に出ていたらヒットしたかもしれない…」